

5月のコラム 新しい場に飛び込んでみる・・

私の趣味の一つに演劇があります。定例の活動は、月1回の練習に公演は、2年に1回とスローペースなのですが、昨秋から、「座・市民劇場」という期間限定の劇団に入っていました。ネット募集でのうたい文句は、「一般公募（5歳～80歳迄）で集まったメンバーと一緒に稽古を行い、公演上演後に解散する「市民参加型★期間限定劇団」です。普段出会うことのない、幅広い世代・職業のメンバーと一緒に作り上げる舞台はこの「座・市民劇場」ならではの♪演劇初めての方でも、ブランクがある方でも、幅広い世代のメンバーと楽しみながら、舞台に挑戦♪」

「普段出会うことのない、幅広い世代・職業の・・・」という言葉に惹かれました。プライベートで集まるのは、ほぼ同年代ですし、仕事関係でもお話をさせていただく多くは、中高年世代です。入ってみて・・やはり新鮮でした。学生、会社員、派遣社員、技術職・・芝居経験は、ある人もない人も。10代20代の方とは、何をどう話しているのかわからずドキドキします。それでも、回数を重ねるにつれメンバーである14人の役者一人一人の個性が少しずつわかってきます。それと同時に、わが身を振り返ることもしばしば。力関係、利害関係がない中で、母親以上の年齢の私でもみんなただの仲間です。凝り固まった自分の概念や思い込みが柔らかくなっていくのを感じます。

半年ほど稽古をして、4月29日に卒業公演が終わりました。演目は「また逢う日まで」。舞台は、天国の待合室。生まれていく者、死んできた者達が交差する場所。モグラ、ミミズ、医者と患者、教師と生徒、赤ちゃんたちが自分の人生を振り返る。というのですが、みんなどこかでつながっている、何らかの縁がある。生きていくって素晴らしいこと。脚本も素敵でした。もうこのメンバーで集まることはないのだと思うと寂しい限りですが、新しい場に飛び込むというのは、固まっている自分の殻に刺激的を与えること。気づかされることも多く、自分が観る世界が少し広がったような気がしました。

話は少しそれますが、日が経つにつれ、この役はこの人以外にあり得ない、と思えてきたのが驚きでした。まさに全員がはまり役。キャスティングをした演出家の観る目ってすごい！ひとつの舞台を一緒につくるという共通の目標があるので、まとまりやすい集団であるのは当然なのですが、職場や会社でもこんな風に個性を生かして楽しく一つの目標に向かって協力できたらいいですね。

2025年5月 水田かほる



メンバーの一人が、公演後、送ってくれました。それぞれの役のイラストですが、一人一人の特徴をよく捉えていて感激！デザインの仕事をされている方ではないのですが、こんな才能に巡り合えたのも幸せなことです。さて、私は何の役でしたでしょうか？